

- 教員個人と年度計画
- 6月開催のFD関連イベントのご案内
- スタッフからひとこと



教員個人と年度計画

年度計画とは？

今回は、大学の年度計画について、教学関係に限定してご説明をしたいと思います。大学は、6ヶ年の中期計画のもとで動くことになっています。年度計画は、それぞれの中長期計画に関して、その年度中に何をするのか、を示したものです。例えば、最初に出てくる中期計画は次のものですが、

学士課程を通じて「信州大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に掲げられた「人類知の継承」を図り、「科学的・学問的思考」を修得するための教育課程を整備する。

この中期計画に対応する年度計画は、

【平成24年度計画】授業配置の整合性の検証に引き続き教育成果の検証の段階に進むため、「信州大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」の学習成果の測定方法について検討し、順次実施する。

となっております。この例で言えば、最初の2年間(平成22・23年度)で「カリキュラムマップ」を整備することで授業配置の状況を検証し、3年目の平成24年度からは、教育成果の検証という新しい段階に入ることになります。このように、大学は、年度計画に従って実績を毎年積み上げていくことで中期計画でうたっている目標を全うする、というように計画を進めていくことになっています。なお、年度計画は、評価・分析室とやり取りしながら、担当役員の責任のもとに策定されます。

年度計画は、進捗状況が国立大学法人評価委員会に報告されます。進捗状況は、「年度計画を十分に実施していない」「十分に実施している」「上回って実施している」という趣旨の(事実上は)3段階で本学が自己評価し、その適否が国立大学法人評価委員会で判断されます。またその判断は社会に公表されます。なお、以上で言及した文書類は、本学ウェブサイトの[大学案内] → [ビジョン・アクションプラン・目標・計画・評価・監査]で全てご覧いただけます。



個人と年度計画

本学教員は『教員業績評価』に毎年対応しなければなりません。その平成23年度版の「教育分野」には次のような項目があります。

2-1. 教育の質(自己申告分)

(1)目標達成項目:大学院、学部(学科、専攻)及び全学教育の教育目標を実現するために、申告教員は、各授業科目につき、どのような努力を行い、どのような成果を挙げることができたか。

大学の中期目標・計画は、

http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/plan/medium_term/を参照し、これに即した成果を記述すること。

あいまいな書き方になっていますが、これは「あなたの教育に関する年間計画を、大学の年度計画に即したものにしてください」というメッセージであると考えられます。個人の行動を組織の行動指針に合わせたものにする、という要請は、一般の組織体では当たり前のものですので、おそらくこのメッセージは年々よりはっきりしたものになっていくものと思われる。このように、年度計画は、教員個人に密接に関わるものにすでになっています。そうならば、年度計画を個人がよく知っていなければなりませんし、また個人個人の行動の累積が大学全体の年度計画の進捗状況を左右する、ということが、お題目ではない本当の『事実』になっていかなければならないでしょう。

先生方をお願いしたいこと

年度計画の進捗状況は、各部局からの報告を担当理事が取りまとめるという形で作られます。教学関係では、個々の中期計画の趣旨を説明し、年度計画を解説し、どういう報告を求めているのかを示した上で報告欄に記入してもらい、という形式の『平成〇〇年度計画(教学関係)報告書』というものを作成し、各部局に記入をお願いするというやり方を平成23年度から取っています。さて、その報告書には、先生方に直接お願いしている項目がいくつかあります。ここではその全てをお示しします。

◆年度計画【004】「信州の自然、歴史、文化を素材として活用する教育やフィールド学習を推進し、環境マインド教育の充実につなげる。」

◎先生方へのお願い

この中期計画に関係する授業では、「信州」・「フィールド学習」・「環境マインド教育」という言葉をシラバスに盛り込んでくださいますと大変助かります。

◆年度計画【005】「理工学系研究科及び医学系研究科(博士課程)において改組に伴い整備した教育課程を開始するとともに、重点的にグローバルな情報発信能力を

を高める方策について引き続き検討する。」

◎先生方へのお願い

*大学院の授業では、「情報収集能力」・「分析能力」・「グローバルな情報発信能力」という言葉をシラバスに盛り込んでくださいますと大変助かります。

*24年度は、大学の方針として、特に「グローバルな情報発信能力」を重点的に整備していく計画を立てています。

◆年度計画【007】「GPA制度の導入に向けて成績の素点化を実施するとともに、GPAのシミュレーションを実施し、GPAの活用方法と、GPA制度に関わる諸制度の検討を行う。」

◎先生方へのお願い

よりよいGPAの制度作りを目的とするシミュレーションを行うため、平成24年度からは、成績を素点で入力していただきますようお願いすることになりました。なお、「優」や「可」といった評定は、素点に従って自動的に入力されます。

◆年度計画【016】「教員の資質・能力を高める体系性を持ったFDプログラムについて成案を得る。」

◎先生方へのお願い

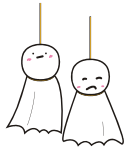
今年度からは、高等教育研究センターが提供するFDについては、こちらで用意したメニューからお選びいただき出張する、という形で進めてまいります。メニューについては同センターのウェブサイトでご確認できます。学部単位だけでなく、5人以上の方からご要望をいただければ出張いたします。お気軽にご利用ください。

なお、24年度は特に次のものを重点的に進めていく計画を立てています。

*青年期の心理と認知の仕組みに関するFD

*成績評価の仕方とGPAのあり方・考え方に関するFD

これらに何らかの形で応えただけですと、それが上で触れた教員業績評価でお書きいただく材料になります。ご協力いただけますと、大学が大変助かります。よろしく願いいたします。なお、『平成24年度計画（教学関係）報告書』は、「部局と高等教育研究センターとの懇談会」で配布しております。また本センターのウェブサイトにも掲載しておきますので、適宜ご参照いただければ幸いです。（文責：加藤 鮎三）



お知らせ 6月開催のFD関連イベントのご案内（お気軽にご参加ください！）
高等教育コンソーシアム信州 連続講演会「発達障害のある学生への支援」第2回
—発達障害のある大学生の立場から— 日時：6月22日（金）16:20-17:50

【会場】教育学部附属図書館2階視聴覚室

【SUNS遠隔配信会場】松本キャンパス 全学教育機構61番講義室/工学部103番教室/農学部12番講義室/繊維学部32番講義室
 高等教育コンソーシアム信州加盟大学遠隔会場

第2回目の今回は、発達障害の診断があり、大学卒業後、結婚、子育てを経験し、資格取得のために再度大学に入学、この3月に無事卒業された笹森理絵さん（特定非営利活動法人クロスジョブ神戸 就労移行支援事業所「クロスジョブKOBÉ」就労支援員/精神保健福祉士）をゲスト講師にお迎えし、大学生活でどんな困り感があるのか、どんな支援があったらありがたいかについてお話ししていただきます。第1回目に参加できなかった方もお気軽にご参加ください。（※コンソーシアム加盟大学の教職員・学生は事前申込み不要です。）

★第1回「発達障害のある学生のための学習支援」（5月16日開催）の講演会の動画、資料は高等教育コンソーシアム信州のウェブサイトにてご覧いただけます。こちら ⇒ (<http://www.c-snet.jp/>)

講演会「共通の理想をめざして—Working Toward the Common Good: Breaking Down Barriers」

日時：6月29日（金）13:00～15:00

※日本語の逐次訳付です。

【会場】松本キャンパスSUNS大会議室

【SUNS遠隔配信会場】教育・工・農・繊維学部各キャンパスSUNS会議室 / 高等教育コンソーシアム信州加盟大学遠隔会場

主催：信州大学高等教育研究センター / 共催：信州大学男女共同参画推進委員会、信州大学国際交流センター

講師：Kathleen T. Brinko先生（米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学・FDセンター長）



FDやSDは単なる「職能開発」ではなく、そのキャンパスで働く人々のQOL（クオリティー・オブ・ライフ）を高めるためのものである、とアメリカの大学では考えられています。互いが互いを認め感謝する人間関係を構築し、多様性を受け入れることは、個人の生活と職場を豊かなものにします。女性研究者や女性職員、外国人教職員や障害者など、マイノリティーの可能性を広げる職場環境を整え、支援することは、学生への教育にも強い影響を与えることを、アメリカの大学の経験をベースにして、お話をいただきます。その後、日本や信州大学の文脈における方向性や可能性について、活発に議論をする時間を持ちたいと思います。

■申込方法■ 6月25日（月）までにそれぞれ下記のとおり申込みをお願いします。
 教職員の方⇒所属部局の庶務担当へ。
 学生の方⇒各学部の学務係あるいは共通教育窓口へ（交換留学生は国際交流センターへ）



スタッフからひとこと

信州に来てから三度目の冬を越しました。毎年「寒くて死ぬ」と思います。永遠に春が来ないのではないかと悲観しますが、春はやってくるのですね。今年も命があってありがたいとしみじみ思いました。

（准教授 加藤 善子）

